

春告げる

神輿警固の山車四輛—乙川まつり

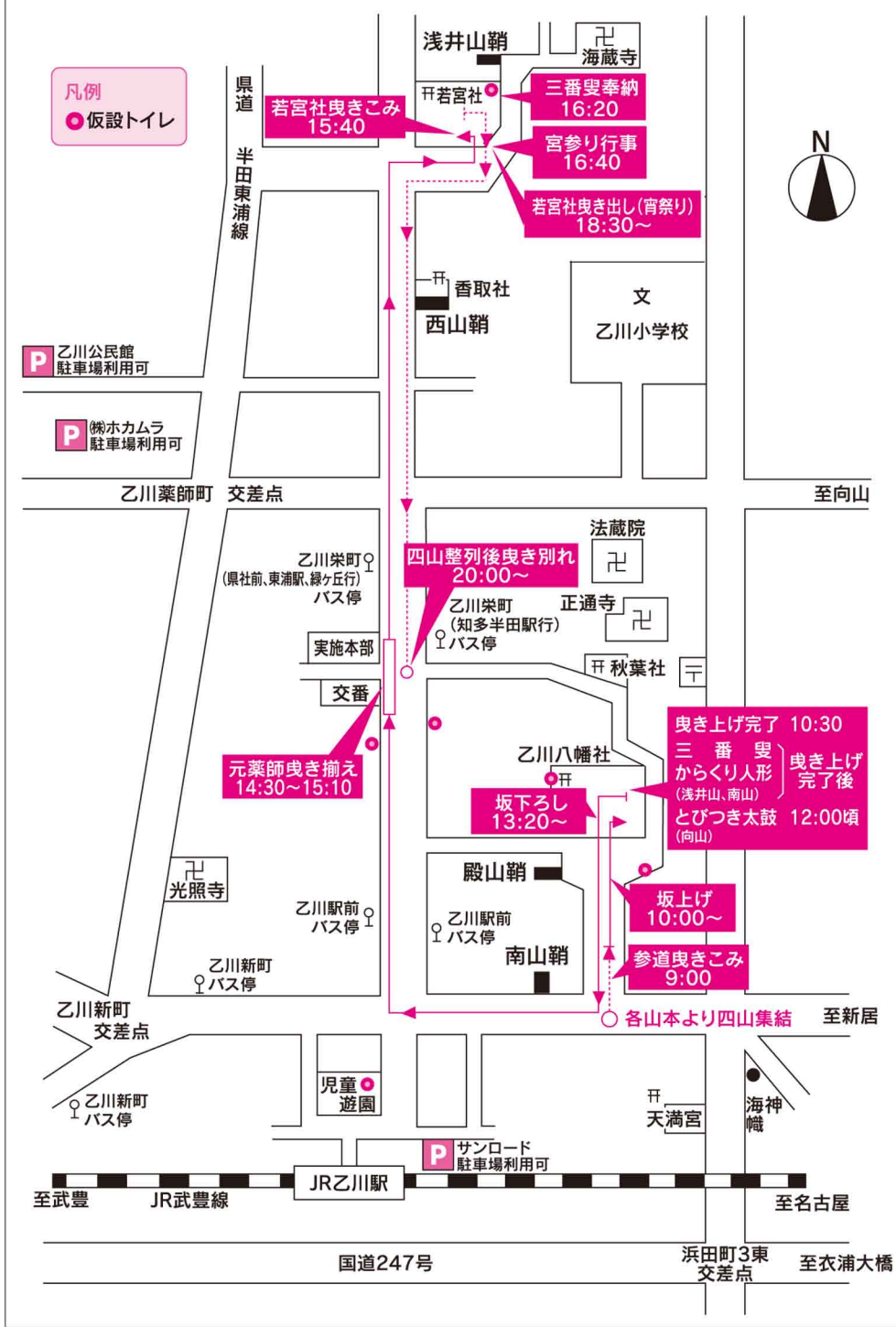
三月十九日(土)・二十日(日)開催

半田市

交通機関

【鉄道】JR「乙川」駅下車徒歩5分。
 【バス】名鉄「知多半田」駅より
 「県社前」、「東浦駅」、
 「緑ヶ丘」行乗車、「乙川栄町」
 下車徒歩5分。

山車巡行図 一目 始楽 3月19日(土)



山車巡行図 二目 本楽 3月20日(日)



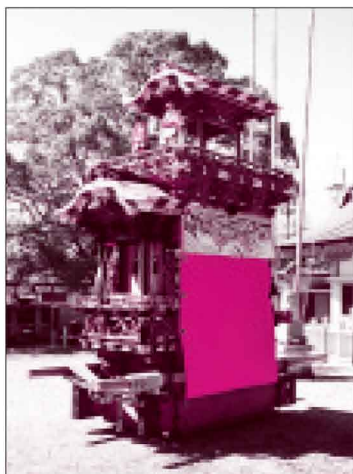
乙川まつり

現在では春彼岸の頃に行われる乙川まつりは、明治四十五(一九二二)年まで旧暦一月十五・十六日(今の二月上旬)に行われていました。その時季は一年でもっとも寒く小雪まじりの季節風が「糸切り風」と呼ばれ乙川まつりの名物でもありました。

神輿にのった神さまが八幡社から若宮社に渡御し翌日還ってくる、二日間わたる神事が乙川まつりです。このとき神さまをお護りするために四輛の御車が曳きだされます。宝暦五(一七五五)年にかかれた「乙川村祭禮絵巻」が示すように乙川では古来よりこのかたが確立されており今に受け継がれています。

みどころは、両神社への宮入り・くり人形奉納・元薬師での四輦曳き揃えです。八幡社に曳きあげるとき若者たちは御幣下の梶棒先を取り合います。この一番梶を守り通したものは乙川一の娘を嫁にもらえるといわれています。

四輦揃って御輿に供奉しての曳きまわしはまさに祭禮絵巻そのものです。



◆浅井山・宮本車

安政6(1859)年、昭和25(1950)年の大改修を経て現在に至る。

主な彫刻 「竹林の七賢人」
 立川和四郎富重
 「牛若丸と烏天狗」
 岸暮角三郎
 「力神」 「三国志」 初代彫常

水引 「波に龍」の刺繍 鬼頭道周下絵
 前欄人形 三番叟
 上山人形 「唐子遊び(乱杭渡り・変身)」
 山田利国作



◆殿海道山・源氏車

嘉永5(1852)年、大正10(1921)年、昭和24(1949)年の大改修を経て現在に至る。

主な彫刻 「焚燐の門破り」
 「風神・雷神」
 立川和四郎富重
 「富士の巻き狩り」
 初代彫常

その他の装飾 高欄廻りの螺鈿
 水引 「松に鷹」の刺繍
 大正5(1916)年菱清作



◆南山・八幡車

建造 天保年間(1830~1844)
 改造 明治43年(1910)

主な彫刻 「稲田姫」 「須佐之男命」
 「桃園の三傑」
 初代彫常
 「龍」 早瀬長兵衛吉政

水引 「群鳩飛翔」の刺繍
 森高雅下絵

上山人形 「役小角大筆校」
 九代 玉屋庄兵衛作



◆西山・神楽車

明治43(1910)年、昭和25(1950)年の大改修を経て現在に至る。

主な彫刻 「稲穂に鶴」
 「糞」 「牡丹に唐獅子」
 初代彫常
 「糸切り風」
 二代目彫常

水引 「日の出に鶴」の刺繍
 小田甫川下絵
 天保5(1834)年作

○天候等、都合により時間などが変わる場合があります。